

研究授業「地域文化論」について

藤 井 雄 三*

Research Class “Study of local culture”

Yuzo Fujii

要約

平成25年度後期において、地域文化論の研究授業を行った。内容は屋島についてである。当初、有効な手段をとったものと思っていたが、必ずしも満足いくものではなかった。今後、どのようにするべきなのか。一つの答として、平成26年度に実施した地域文化論の授業概要を提示した。

キーワード：地域文化、屋島

(Abstract)

I conducted a research class “Study of local culture”, regarding “Yashima”, in the second half of 2013. I tried the most efficient way but i could not be satisfied about the results enough. I considered the break through plan and decided to propose the brief overview of our new research class “Study of local culture” in 2016.

Keywords : local culture, Yashima

¹ 提出年月日2014年11月28日、高松短期大学秘書科講師

はじめに

本稿は高松短期大学において実施した研究授業「地域文化論」についての報告である。そして、この報告を今後の授業研究の資とすることが目的である。

1. 実施の日程等

(1) 研究授業

日 時：平成25年11月25日（月） 3校時

場 所：1号館1202講義室

科目名：地域文化論

対象学年：対象学科：秘書科2年

(2) 検討会

日 時：11月27日（水） 4校時

場 所：1号館1階会議室

2. 「地域文化論」の授業計画（本学シラバスより）

(1) 【授業の紹介】

県や市等の地方自治体は、幾つかの地域によって構成されている。その各々の地域では特色のある地理・歴史・文化が育まれている。各地域の文化を知ることは、現在、住んでいる私たちの土地を再確認する上で重要である。幾つかの地域を選んで勉強していきたい。

なお、地域については事業計画のとおりとするが、場合によっては他の地域を充てることもある。

(2) 【到達目標】

人々が「隣の花は赤い」と思うように、自分の身近な地域については、概ね評価は低い。いく地下の地域を例にとりて学び、身近な地域を自らが目直し、郷土愛の育成に繋がるようにする。

(3) 【授業計画】

第1回 仏生山地域

第2回 牟礼地域

第3回 雌雄島地域

- 第4回 鶴尾地域
- 第5回 香西地域
- 第6回 善通寺地域
- 第7回 国分地域
- 第8回 府中地域
- 第9回 円座地域
- 第10回 一宮地域
- 第11回 香南地域
- 第12回 津田地域
- 第13回 志度地域
- 第14回 長尾地域
- 第15回 古高松地域

(4) 【授業時間外の学習】

身近なところにも勉強の対象はあるものです。住まいの近くを見直してみましよう。

(5) 【成績の評価】

原則として、遅刻は15分までは認めるが、それ以上は正当な理由がない限り欠席扱いとし、中途退席をした場合は、正当な理由がない限り欠席とみなす。

(6) 【使用テキスト】

なし

(7) 【参考文献】

各町史等

3. 授業の概要

(1) 授業題目

屋島

(2) 指導上の留意点・工夫

シラバスに変更がある旨、事前に通知しておいた。

事業は、以下の資料を使って授業にアクセントを持たせ、学生の学習意欲が高まるよう心がけた。

- ✓ 古絵図
- ✓ 屋島年表
- ✓ 現地の写真映像
- ✓ 平家物語現代語訳

なお、当該地域文化論の授業は当該日の授業だけでなく、全てパワーポイントを作成し、それを元に授業を行っている。学生には必要なスライドを印刷し、それを授業用の資料として配布した。

古絵図では、江戸時代初期の屋島を古絵図で提示するとともに、現在までの大まかな変更を示した。

それを受けて、屋島が変わっていった歴史の流れを年表で追った。

次いで源平合戦古戦場などに焦点を充て、写真映像で各所を学べるようにした。

そして、平家物語を読むことによって、何故、古戦場が残されているのか、平家物語の魅力などとあわせて考える機会を提供した。

研究授業後、屋島では現地学習を実施し、源平合戦史跡を実見するなどの対応をした。

(3) 学生の状況

現代語訳を読ませる部分では、学生の声小さく、授業に活気が少なかった。

授業全体にメリハリが少なかった。

古絵図などの活用方法を検討する必要がある。学生への提示方法。

学生には学習意欲の少ない者もいた。

4. 今後の検討

(1) 検討内容

地域文化論は、地域のことを知るための授業と考えている【授業の紹介】。従って授業の目的は変更しない。

ただし、平成25年度の地域文化論では、対象地域が各地に散ばったため統一感が無かった。扱ったテーマも同様で、講義内容に一貫性が無かったのは否めない。対象地域を絞りこんだ。

なお、高松市円座町に所在する天平仏、正花寺の木造菩薩立像をとりあげるのを機会に、様々な仏像について解説した。将来、寺院だけでなく、博物館、美術館などに

において、仏像鑑賞の機会があることを想定したためである。今後もそのような内容の授業を取り入れていきたい。

(2) 授業方法

基本的には講義形式をとったが、ときおり資料を学生に読ませ、できる限り授業に関心を持つように努めた。

理解度を深めることを目的とした小テストを作成し、学生が意欲を持てるよう配慮した。

5. まとめ—授業改善の課題—

(1) 改善内容

平成25年度の授業を受けて、平成26年度の地域文化論については、授業内容を大幅に見直すこととした。

見直し内容は次のとおりである。

- a 各地域をとりあげるのではなく、統一性、一貫性を持たせるために一つの地域を対象とした。

結果として、選んだ対象地域は高松市の屋島地域である。資料の量、各種調査の進捗状況などのほか、他の地域と比較して多くの学生が、観光地・屋島を訪れた可能性が高く関心も持てることと判断したことから、屋島を選択した。

- b 授業の内容、授業の進行方法については、現段階では平成25年度を踏襲することとした。基本的にはパワーポイントによって、授業を実施するとともに、配布資料もそれをもとに作成した。

パワーポイント作成にあたって、できる限り映像資料を活用することとした。

- c 授業の中には、仏像について（木造菩薩立像）で行った授業のように、広い視野で行うものも幾つか組み込んだ。

- d 授業は基本的に時代順に行った。ただし、時代に関係ないものについては任意である。

(2) 具体例

平成26年度において実施した授業について、パワーポイントで作った資料を列記する。

- a 屋島からの見え方

屋島から見た景観 屋島山上など各所から瀬戸内海、高松平野がどのように見え

るか、映像で見せる

b 屋島の見え方

屋島の見え方 周囲からの屋島の山容がどのようにみえるか、その見え方を映像で見せる

c 屋島の古い表現

古絵図等の資料を使って、屋島がどのように見られていたのか、どのように表現されていたのかを映像で見せる

a、bが三次元空間における屋島の見え方なのに対し、本セクションでは時間的な見え方を知る

d 屋島の地形

屋島の地形、地質から現在の屋島がどのように形成されたのかを知る
あわせて地球の地史、人類の誕生についても説明する

e 屋嶋と伝説

屋嶋地域にのこされた伝説を学ぶ 太三郎狸の伝説
男木島・女木島とあわせ「山幸彦、海幸彦」の神話を学ぶ

f 古代山城 屋島城

日本書紀に記載された古代山城を学ぶ
古代初期の東アジアの歴史、日本の歴史を学ぶ

g 屋島城跡の整備

屋嶋城跡の整備事業の状況報告 説明には画像を使用する

h 屋島寺の創建と伝説

鑑真創建、空海中興とする屋島寺の寺伝を学ぶとともに、今ものこされた伝説について知る

空海の生涯についても触れ、郷土讃岐の大偉人の事績を知る

i 屋島寺の歴史

古代から現在に至る屋島寺の歴史について学習する
千間堂の発掘調査についても学習し、鑑真創建伝説等との違いを把握する

j 屋島寺と遍路道

屋島の南麓から屋島寺へ至る遍路道と、屋島寺から屋島東麓に降り相引川までの遍路道の各所を映像で見せる。

k 四国遍路

四国遍路の発祥と歴史を学ぶ

l 遍路道と世界遺産

「四国八十八箇所霊場と遍路道」を世界遺産にするべく、四国四県において世界遺産の指定にむけて努力がなされていることについて説明

m 源平合戦概略

源平合戦が起こった理由、経緯と結果について説明

n 屋島と源平合戦史跡

源平合戦の行われた屋島に残された史跡について、映像を使って説明

o 屋島と平家物語

平家物語のうち、屋島に関連したもの継信の最期、扇の的、鏝引き、弓流しのほか、小宰相身投を選び、読み合わせを行った

p 平家物語と絵画作品・歌川国芳

高松市歴史資料館で所蔵する平家物語に関する絵画を映像で鑑賞し、描かれているエピソードなどを学ぶ

あわせて、日本画、錦絵の基本的な事柄を知る

q 平家物語と短歌等

屋島合戦に関係した文学作品（短歌、俳句、川柳、詩など）を学ぶ

r 屋島と長崎鼻

長崎鼻に築造された前方後円墳の長崎鼻古墳と幕末の砲台長崎砲台について、映像などを参考にしながら学ぶ

s 屋島における産業（製塩業）塩の歴史

屋島における塩づくりの歴史を学ぶ

古代から現在に至るまでの製塩方法について知る

t 瀬戸内海と景観

屋島が面する瀬戸内海について、その名前の誕生、また、景観意識の変遷を知る

u 瀬戸内海国立公園の成立と小西和

瀬戸内海が国立公園に指定となった経緯を学ぶとともに、尽力した香川出身の小西和についても学ぶ

v 屋島PR大作戦

瀬戸内海国立公園化前後、香川県内各地で行われていた観光地事業と屋島の関係について学ぶ

屋島に至る交通機関（瀬戸内海航路は除く）の発展についても知る

w 瀬戸内海の航路大坂商船

大阪商船の運航した瀬戸内海航路について知る

x 屋島絵葉書

戦前の絵葉書を中心に当時の屋島を映像で知る

y 屋島の歩み

復習の意味で屋島の変遷を知る 年表を利用

上記に従って授業を行った。今後、反省点も踏まえ、よりよい授業の実施に向けて努力していきたい。

下線部分は、屋島だけでなく広い分野での授業内容を含む。

執筆者紹介

O.Baterdene	モンゴル国経済開発省投資政策局	主任
丸山 豊史	高松大学 経営学部	教授
山口 直木	高松大学 経営学部	准教授
岡本 丈彦	高松大学 経営学部	助教
澤田 文男	高松大学 発達科学部	准教授
津村 怜花	高松大学 経営学部	准教授
花城 清紀	高松大学 経営学部	助教
藤井明日香	高松大学 発達科学部	講師
岡 耕平	滋慶医療科学大学院大学	講師
川崎 紘宗	高松大学 経営学部	講師
竹内 由佳	高松大学 経営学部	助教
向居 暁	高松大学 発達科学部	准教授
森 享子	高松大学 経営学部	非常勤講師
井上 範子	高松短期大学	教授
小西 博子	高松短期大学	准教授
藤井 雄三	高松短期大学	講師
溝渕 利博	高松大学 発達科学部	准教授

研究紀要

第62・63合併号

平成27年2月25日 印刷

平成27年2月28日 発行

編集発行

高松大学

高松短期大学

〒761-0194 高松市春日町960番地

TEL (087) 841-3255

FAX (087) 844-4759

印刷

株式会社 美巧社

高松市多賀町1-8-10

TEL (087) 833-5811